

第2回野外体験保育有効性調査・検討委員会 議事概要

- 1 日 時 平成27年10月23日（火）午後2時～4時
- 2 場 所 三重県四日市庁舎 2階 22会議室
- 3 参加委員 池田委員、井上委員、宇佐美委員、木戸委員、服部委員（50音順）
- 4 内 容
（1）野外体験保育の普及方策（案）について

①事務局から

野外体験保育の普及方策（案）の考え方について説明

②委員からの主な意見

- ・幼稚園協会の新人研修にこうしたメニューを入れてはどうか。多かれ少なかれ、自然体験の機会はどこ園でもある。
- ・保護者と子どもを対象とした自然体験を土日に実施するのはどうか。親も巻き込んで啓発すると効果が高い。
- ・交流会はよい取組であると思うが、この交流会について、結果はどのように記録し、効果が蓄積されていくのか。
→（事務局）事業実施後の普及が重要であり、記録をWeb等で発信していきたい。
- ・親向けの体験、子ども向けの体験に分けるとよいのではないか。最後に親子・保育者が一緒になった啓発を行うのが望ましい。
- ・自分のところでも親子の自然体験機会を提供しているが、就学児を含め、子どもに自然を体験させる親のニーズは高い。昨今、イベント的な体験は多いが、その理念を伝えるのは難しいと感じている。
- ・初年度としては、事務局の提示した案がちょうど良い程度かと思う。冊子の啓発は、立派なものを施設に配るより、簡易なものを保護者に配る方がよい。研究会については、保育者が主体的に動けるしくみを作らないと、後につながっていかない。保育者が役割を持ってやるのが大切。
- ・アドバイザー派遣について、モデル園に派遣する人材は、「森の風ようちえん」だけでなく、県内外の専門家にも来てもらおうとよい。また、今年度末にとりまとめる報告書には、県として野外体験保育の推進を図る理由やビジョンなどをしっかりと記入することが必要。

(2) その他（森の風ようちえんの現地視察について）

○視察に参加された委員からの主な発言

- ・「森の風ようちえん」では、定期的に野外体験保育に関する研究会を行っている。小学校では、テーマを設けて学校の枠を超えた教員同士の研究会などがあるが、保育施設でも、こうした場があるとよいと感じた。
- ・「森の風ようちえん」は、地域のコミュニティづくりに波及していると感じた。また、同園の嘉成園長は、「子どもには力がある」と仰っていた。実は、保育者がこれに気づいていないと、子どもの力を引き出せない。保育者向けにこうした支援が必要だと感じた。